

# THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

# NETWORK NASU

## CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2025～2026年度 No.314

## 2 月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共に那須YMCAの活動を探る

強調月間：TOF

FF

HTW (世界を癒そう)

今月の ヨハネによる福音書 17 : 21

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしの内にいるようにしてください。  
(略)

### 2月第1例会 (ユースリーダー活動報告・卒業リーダー感謝会)

日時：2月24日(火) 午後7時～

場所：日本基督教団 西那須野教会 1階ホール

内容：YMCAの活動に奉仕して下さる、ユースリーダーの今年度の報告と、卒業されるリーダーへの感謝を込めて、那須ワイズより、記念品を贈ります。

司会 武田将吾担当主事

開会点鐘・挨拶・ゲスト紹介

会長 村田 榮

ワイズソング斉唱・ワイズの信条の斉唱

聖書朗読・祈祷 西那須野教会 牧師 潘 炯旭

ユースリーダー紹介

武田将吾担当主事

報告会

東日本ユースリーダーズフォーラム報告

及川愛花 (あいすリーダー・那須)

高野裕斗 (ツクルリーダー・那須)

全国リーダー研修会報告

小林亜望 (なっぱリーダー・那須)

南谷珠安 (じゅ〜リーダー・宇都宮)

卒業リーダーへの感謝記念品贈呈

会長

報告事項

YMCA・ワイズ

YMCAの歌

閉会挨拶・点鐘

会長 村田 榮

西那須野教会の婦人会の方々に食事の準備をお願いしました。

会費 メン・メネット 1,000円

ご参加いただける方は、2月19日(木)までに村田まで連絡をください。

2025～2026年度 主題

国際会長：(IP) エドワード・オン (シンガポール)

『信念、愛、行動』

アジア太平洋地域会長：(AP) 田上 正 (熊本むさしクラブ)

『信念と愛を持って行動しよう!』

東日本区理事 (RD)： 山下 真 (十勝クラブ)

『ワイズのらしさ再発見』

北東部長： 三田 庸平 (もりおかクラブ)

「ユースと共に明るい未来を」

### クラブ役員

会長：村田 榮

副会長：田村 修也

書記：藤生 強

会計：鈴木 保江・村田 榮

担当主事：武田 将吾

ブリテン：田村 修也・村田 榮

### 1月例会データー (出席率：85.7%)

メンバー 5名、メネット 2名、

ゲスト 3名、(広義会員2名)

メイキャップ

### 2月 Happy Birthday

2/12 村田 榮 メン

### 3月役員会 (第2例会)

日時：2月24日(火) 午後6時～

場所：日本基督教団西那須野教会

3月例会 (昔懐かしいゲーム大会)

日時：3月14日(土) 午後1時30分～

場所：西那須野教会

## 巻 頭 言

井口 延兄の帰天に寄せて

1月7日に、藤生強ワイズから井口延兄の訃報のメールが入りました。そこには、葬儀のご案内として、「拝啓 父井口延は、かねてより病氣療養しておりましたが、2026年1月6にて、87歳にて帰天いたしました。ここに生前のご厚誼に深く感謝し、謹んでお知らせいたします。

日時 2026年1月9日（金）14時30分より 場所 日本基督教団 四谷新生教会 新宿区四谷1-14 喪主 井口真」と書かれてありました。

井口延兄は栃木県に初めてのYMCAを設立するために、東京YMCAから宇都宮へ1977年3月1日に着任しました。とちぎYMCA40周年誌には、「1977年6月2日 井口延主事と初会合は、十河宅にて諏訪治男、関口美智子、十河弘と共に行われた。宇都宮地域在住者で、発起人に依頼できる人の発掘を相談。この日、元教会青年会の人を中心に原田時近（ナスハウス社長）、鱒淵和義（鱒淵木工社長）、田村修也（栃木県庁宇大YOB）への連絡が行われ、協力を依頼。また田村夫人は学生時代に井口主事と同じ東京の教会に在籍していたことも判明した。」と記載されています。

井口延兄から話が出ましたように、田村暁美メネットは保育専門学校草苑卒業後、四谷新生教会の四谷新生幼稚園に勤務しておりました。そこで甲原一牧師より洗礼を受け、教会員として、教会建築に当たりましては井口延兄のお父さんである井口保男氏と共に建築委員をしておりました。その後西那須野教会の牧師であり、西那須野幼稚園の理事長・園長である福本治夫先生の要請を受けて実家に帰り、西那須野幼稚園の教師として勤務することになりました。

このような事情もありまして、井口ご一家が宇都宮に移住してこられてから、また親しい交わりをさせて頂いておりました。奥様の節子夫人はご家族の「家族新聞」を作成しておりましたので、見せて頂くこともありました。

関暁美姉は同じ教会の青年会員であった私と結婚したことを甲原一牧師に報告することを兼ねて、教会青年会員の数名の方々と四谷新生教会を訪問したことがあります。その時私は着古したダブルのスーツを着て行ったためでしょうか、甲原牧師は私のことをかなり年上の男と感じたのでしょうか、別の青年会員の男性を見て、この人が結婚相手かと暁美姉に聞いていたようなことを覚えています。

井口延兄とはYMCAのPRに栃木地区内の教会を訪問いたしました。当時私は日本基督教団栃木地区の宣教委員会の書記をしておりました関係で、各教会の先生がたとは親しくさせて頂いておりました。ある時、公務で多忙だった土曜日、井口延兄から上三川教会に連れて行ってほしい要請がありましたが、多忙だからと言ってお断りすると、どうしても行きたいのだからと説得されて、自動車に乗って上三川教会の猪瀬先生の所を訪問したことを覚えています。

また、県北地域にもYMCAの活動を進展させるため、西那須野教会で日曜日の礼拝の後で数回にわたり井口兄に来て頂いて説明会を開催いたしました。この説明会を通して福本治夫牧師、高見敏弘アジア学院院長、教会員の野崎威三郎、有沢正義、福本光夫、菊地創、楡井一俊はじめ教会員の方々が入会されました。更に、井口兄にお願いして、開館して間もない西那須野町図書館に、当時日本YMCA同盟で出版している図書一式を贈呈して頂き、西那須野町内の方々の目に触れるように井口兄と共に贈呈式も行いました。

井口延兄は総主事として宇都宮YMCAでの3年目に「YMCAの意味するもの—宇都宮YMCA設立記念講演集—」を刊行しました。湯浅八郎「YMCAの意味するもの」、永井三郎「青少年を育てるYMCA」副田義也「明日の地域社会」人の心をつなぐもの、永井三郎「ボランティア運動としてのYMCA」その今日的意義、の四つの講演をまとめたものであります。その刊行にあたって、井口兄は「まえがき」として、次のような言葉を寄せておりますので、紹介させていただきます。

「はじめに 総主事 井口 延

宇都宮YMCAが設立されて満二年となりました。蒔かれた種が芽を出して、双葉が外気を伺っているような、そんな状況を思い浮かべます。

振りかえって、誠にささやかではありますが、先輩YMCAの暖かい励ましと、多くの地域有志会員の方々に支えられ、YMCAの願いとする青少年の健全な育成を目ざす活動を展開することが出来たことを心より感謝申し上げます。

三年目を迎えて、宇都宮YMCAもいよいよ本格的な活動をしなければならない年となりました。その真価を問われる年と思います。会員数が増えるに従って地域の期待もますます大きくなっていくのを肌を感じています。YMCAの活動は自らのためだけではなく他への奉仕をもって初めて、その存在の意義を明確にすることが出来るものであることを自覚して、更に積極的な活動をしたいものと願っています。

この小冊子は、この二年間に宇都宮YMCAで催されたさまざまな講演の中から、一部を選んで、その録音テープからおこしてまとめられたものです。

遠く、京都や東京から離れたこの小さなYMCAのために出向いてくださった講師の方々に改めて深く感謝申し上げます。

この小冊子によって私達自身がさまざまに啓蒙され、地域青少年のために尽くす力が更にあたえられるものであるようにと願っております。」。

私は副田義也先生の講演は聞くことが出来ませんでした、湯浅八郎先生と永井三郎先生の講演は聞くことが出来たことは、得難い宝物になっております。

私の手元には井口延兄から頂いた写真があります。その写真にはあの若き日の星野富弘さんと、富弘さんに洗礼を受けた舟喜牧師と思われる方と井口さんが並んで移っております。私の所属している西那須野教会では昨年12月6日から13日まで星野富弘アート展を開催いたしました。延べ726名の方々が来場されました。中には3回、5回とお出でになった方もおられました。

かみとひととに そのみをば ささげつくして たたかいし

とおきみおやの あゆみじを たどるところに わきいずる YMCA わがしらべ (櫻井信之 作詞 津川圭一 作曲)

井口 延兄と共に歩んだ年月を感謝しつつ 田村修也



1月例会 新年例会 於：龍鳳園 2026.1.17

## 1月例会(新年例会)報告

日時：1月17日(土) 午前11時30分

場所：

参加者：田村、藤生、原田、武田、村田の各メン。  
田村、村田の各メネット、潘牧師ご夫妻、木村真希子姉 10名。

恒例の「新年例会」を、ワイズ例会の会場としていつもお借りしている西那須野教会から歩いて5分くらいのところにある「中華料理 龍鳳園」(那須塩原市西大和)にて、ワイズ活動にご協力いただいている日本基督教団西那須野教会の潘牧師夫妻と木村真希子姉を招き、美味しい食事を頂きながらの「フリートーク」にて行いました。



例会開催日が1月17日であったので、1995年に起きた「阪神淡路大震災」についての話題となりました。村田会長夫妻は当時関西に居住していたのでその被害を目の当たりにしたこと、藤生書記は勤務先だった東京山手YMCAのスタッフやユースボランティアリーダー達とGWに西宮YMCAへ復興ボランティアに行ったこと、など当時の色々なことが話されました。それから那須ワイズの活動地域も被害のあった1998年8月の「那須水害」や2011年3月の「東日本大震災」などについても話がされました。ゲストの潘牧師に韓国の地震状況をお聞きすると『韓国は地震が少ない』とのことでした。韓国を含めたアジアが位置するユーラシアプレートの東端にある日本列島はいかに地震が多いのかをうかがい知れる話でした。同じ自然の驚異でも寒さについては『韓国は日本の比では無いくらい寒い』とのことで、そこは日本の方が過ごしやすいのかなと思いました。ただし家の中は「オンドル」(韓国等の伝統的な床暖房装置)があるので『韓国の方が暖かい!』と言っていました。

食事が落ち着いたころ、参加者から近況や今年の抱負などを簡単ですが聞きました。仕事のこと、趣味のこと、健康のことなど、それぞれが気に留めていることなど話されました。



最後に「お年玉争奪ジャンケン大会」を行いました。お年玉と言ってもラップなどの家庭用品やコンニャクゼリー、ボールなどでしたが、「大の大人」が真剣にジャンケンをする姿は平和を感じました。世界が平和になることを祈りつつ、楽しいひと時を過ごしました。

## 第2例会（役員会）報告

日時：1月17日（土）午後2時～

場所：田村副会長宅

出席者：田村、村田、武田、原田、藤生各メン、田村、村田メネット

1. 2月例会について  
ユースリーダーの報告会と卒業リーダー感謝会とし、2月24日（火）午後7時から、西那須野教会にて行う。卒業リーダー男子3名、女子4名。食事は、古川姉、高久姉に依頼する。
2. 3月第2例会（役員会）は、2月24日（火）の例会前の午後6時から、西那須野教会にて開催。
3. 3月例会について  
3月14日（土）午後1時30分から、西那須野教会にて開催する。昔懐かしのゲームを楽しもう。リーダー等に案内をする。  
ゲームとしては、輪投げ、紙飛行機、バウンドオフ等を行う。内容は次回の役員会で決定する。
4. 4月例会について  
リーダーとキャンプソングを行う。日程については、次回悪役員会で決める。  
Week 4 Wasteの活動についても考える。
5. 5月例会について  
植樹例会、日程については塩那森林管理署と相談する。
6. 6月例会について  
年度報告と次年度改革を考える会とする。
7. 那須ワイズの次年度組織について  
今年度と同じで行う。
8. ユースサポートファンドへの協力について  
クラブとしては、10,000円。個人として、田村、原田、村田が各5,000円。合計25,000円を送金する。

## 開拓と信仰の姿「開拓と西那須野教会」（16）

副会長 田村 修也

父弥三郎は、かつて米の仲買いのため氏家あたりまで来ているので、心細さはあまり無かったのかも知れない。むしろ希望に胸が膨らんでいたことだろう。しかし大きな重圧を全身に背負っていたのだっ

た。四方を見渡せば那須山、高原山等の連山を西北に、雑草茫茫としてその風景の美しさに目を見張った。それより那須開墾社至り、当夜は同社に宿泊した。（その風景の美しさに目を見張った！）

1月11日旧本社長印南文作氏の留守宅を借りて移り、その後は毎日己が所有地に行って建築地の開墾をした。義兄一家を案じて付き添ってきた源三郎も、2,3日して帰って行った。「それからは防風堰を築き、馬を求めて買物の運搬をし、その困難なことと多忙なることは、想像の外であった。」「当地へ到着して5,6日は、夕方になって烏がネグラに帰る時になると、故郷のことを思い、袖をしぼる時もあった。」

12月11日「寒気昨日来より追々強さを加う。本日も例の如く我が屋敷地に至りて、4人ひとしく開墾に従事し愉快に終日を費やせり。（私も父親と僅かな土地を開墾したのですが、思い出します。）

12月13日「本日もまた開墾に従事し、甚だ愉快に終日を費やせり。然れども肉体の困難なる、起業者の常なりとは言いながら亦甚だしき哉。」

12月17日「本日は早朝より新築家屋に印南氏の宅より移転をなし、当夜より新築家屋に居住するを得たり。」

12月19日「本朝より井戸掘りの手伝いをなし、終日終れり。」

12月20日「本日も井戸掘り。」

12月21日「安息日礼拝、真澄と共に馬乗り。」

12月25日「クリスマス。朝、馬屋の建てまえをなし、夫より井戸掘りをなし居りしが寒気甚だしく甚だ困難せり。」

開墾起業次年の景況として、開拓2年目に状況について、まとまった記述があります。

昨年11月10日故郷を発し、開墾起業を志し、翌11日那須野に来たが、当時は未だ甚だ寒からず、原野に多少緑色が残っていた。その後日増しに寒気加わり、一帯一木の生ずるなきを以って、激風地をはらって吹き去り、数年以前はこれがため民家を度々破ったという。余等が移住した時は、住宅の建築がおくれたために、印南氏の宅を借りて住んだが、12月17日新家屋に移築した。然し屋内の雑作は出来ていなかったから、日中職工が土足で上下するので、夜になれば掃除し、上に畳を数枚敷いて住んだ。しかしながら、壁の裂け目から星を眺めることが出来る有様であった。

「世に起業者の常として初年は家具一切整わず、加うるに、事業多端なるに際し、余等の困難なる他人のよく想像しうるところにあらず。夫れより追々気候寒さに向いて、大風家を破るかと思ひ、夜中しかも白雪霏々たるの時に、裏に出て家の保護をな

すこと度々なり。既に1月中旬の頃に至っては、早朝未だ太陽世界を照らさざるの先に野に出て、丁々開墾に従事せしが、寒気に耐えかね、手をふところにして之を暖むれば、足は既に地に氷結して、之を動かすごとに、ガサリガサリとの音を発す。而して余等此地の風土になれざるを以って、非常に荒れていささかに堪えかねたり。ここにおいて歌でいう。「この原にうつり来しよりその後は ひびしもやけの絶ゆる間もなし」(以下次号へ)

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

認定こども園 西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

「車椅子に乗るようになってから十二年が過ぎた。その間、道のでこぼこが良いと思ったことは一度もない。ほんとうは曲りくねった草の生えた土の道の方が好きなのだけれど、脳味噌までひっくり返るような震動は、お手上げである(略)ところが、この間から、そういった道のでこぼこを通る時に、一つの楽しみが出てきた。ある人から、小さな鈴をもらい、私はそれを車椅子にぶらさげた。手で振って音を出すことができないから、せめて、いつも見える所にぶらさげて、銀色の美しい鈴が揺れるのを、見ているだけでも良いと思ったからである。鈴の音を聞きながら、私は思った。人も皆、この鈴のようなものを、心の中に授かっているのではないだろうか。その鈴は、整えられた平らな道を歩いていたのでは鳴ることがなく、人生のでこぼこ道にさしかかった時、揺れて鳴る鈴である。美しく鳴らしつづける人もいるだろうし、閉ざした心の奥に、押さえこんでしまっている人もいるだろう。

私の心の中にも小さな鈴があると思う。その鈴が、澄んだ音色で歌い、キラキラと輝くような毎日が送れたらと思う。私の行く先にある道のでこぼこを、なるべく迂回せずに進もうと思う」(星野富弘「鈴のなる道」)

12月に西那須野教会において、昨年天に召された星野富弘さんの詩画展が開催されました。星野富弘さんは、中学校の体育教師時代、鉄棒からの転落事故によって首から下の自由を失いました。その後、口に筆をくわえて創作活動を続けられた方で、クリスチャンでもあります。苦しみの中にあっても、希望と感謝を見つめ続けた星野さんの言葉と絵は、子育てに向き合う私たちの心にも、静かに寄り添ってくれます。そして、私にとっても大好きな作家のお一人です。30数年前、西那須野で原画展が開催された際には、我が家に梱包された作品が二晩泊ま

ったという忘れがたいご縁もあります。当時、特に心に残った作品が、後述の「たんぽぽ」という詩でした。

今回、冒頭の「鈴の鳴る道」を再読して、改めて気づかされたことがあります。星野富弘さんは事故から12年かかって「心の鈴」に気づきました。子ども達は、毎日の遊びの中で、友だちとの関わりの中で、うまくいった経験も、悔しい経験も、すべてを通して少しずつ「心の鈴」をつくっていきます。まだ小さく、形も音色も定まらない鈴かもしれません。

しかし、この神様から一人ひとりに授けられた「心の鈴」は、人生のでこぼこ道に出会ったとき、思い通りにいかない坂道に立たされたときにこそ鳴り、その音色を楽しみながら、少しずつ乗り越え、着実に歩んでいく力になります。私たち園は、こどもたち一人ひとりが、人生のどんな道に出会っても、自分の「心の鈴」を鳴らしながら歩いていけるよう、日々の保育を大切に積み重ねていきたいと願っています。保護者の皆さまと共に、喜びも悩みも分かち合いながら、こどもたちの「今」と「これから」を支え合えていけたらと思っています。

そして、「たんぽぽ」の詩のように、それぞれが与えられた場所で、しっかりと根を張って善く生きることを願っています。

『たんぽぽ』

「いつだったか きみたちが空をとんで行くのを見たよ 風に吹かれて ただ一つのものを持って 旅する姿が うれしくてならなかったよ 人間にとってどうしても必要なものは ただ一つ 私余分なものを捨てれば 空がとべるような気がしたよ」(星野富弘)

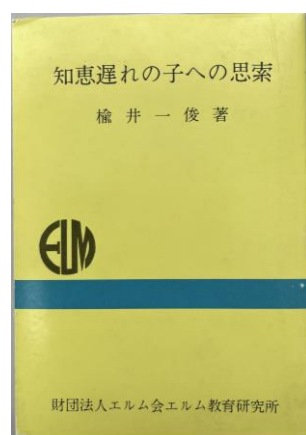
## エルム福祉会便り

社会福祉法人 エルム福祉会

常務理事 川上 聖子

知恵遅れの子への思索

楡井一俊著



「ニューギニア高地人」以前朝日新聞社から出た「ニューギニア高地人」の中で、筆者の本多勝一氏が書いています

「私達の接した高地パプアの中では、カポーク族が最も“ひらけて”います。エナロタリ付近を中心に、文明の余波が最も早くから寄せてきたから

です。ウギンバのダニ族やモニ族に比べたら、ずっと“文明人”です。ところが、最も威厳に欠け、卑屈で、自尊心のないのも、やはりカポーク族でした。文明に接したカポークの方が、原始のままのモニやダニよりも不幸感を味わっているようです。

又、中根千枝氏の「未開の顔・文明の顔」から引用して、スエーデンの生活にふれ、「一般のスエーデン人たちの今の理想は、快適なアパートに何不自由なく住み、自動車を持ち、お休みにはイタリア旅行をすることだ。イタリア旅行は、ちょうど日本人のテレビぐらいに相当しよう。私は不思議に思った。この家の生活水準だったら、日本ではさしずめ、上流の下のところだろう。いや、これだけ完備したアパート生活なら、ほんの少数の特殊な人々にしか許されないものだ。しかし何ということだろう。その主人と言ひ、二人の子ども達は、ひどい貧乏づらをしている。こんな貧相な顔は、日本では長屋生活をしている人ぐらいだ。インドの貧しい農民だって、もっとちゃんとした立派な顔をしていたではないか。………」と書いていますが、わたし達は、これと同じようなことを幾度も経験しています。どんなに立派な会社の重役さんや大学の先生でも、ずい分家庭的にはさびしい孤独な人が居ります。そして、わたし達の生徒の家庭の中には、どんなに貧しくとも、たとえ、夕食に芋がゆをすすっている生活をしていても、食事時には、みんな一つの鍋を真中に、一家そろって楽しく食べているのを見る時、わたしは、幸せというものがどのようなものかを、つぶさに知らされるのです。

地位や身分や知能の程度で、幸せなど論ずることはできません。わたしは、特殊学級担任となつて、素晴らしい教訓を発見したと思っています。

※当時の表現をそのまま使用しております。ご了承ください。

なお、この本を保存するために、「SELE みなと」の利用者（O.S）さんが、パソコンで、すべて入力してくださいました。感謝です。

## YMCAだより

【菅平エンジョイスキーキャンプ（ウィンタープログラム）】

12月28日～30日に長野県の菅平高原でスキーキャンプを実施しました。栃木県全域から24名の参加者が集まりました。スキーに初めて参加する子もいれば、何度もスキーキャンプに参加している子もいました。雪が積もった菅平高原のゲレンデを楽しそうにリーダーたちと滑走する姿がゲレンデで輝いていました。バスの中や夜のプログラムでは、

キャンプソングやレクリエーションで親交を深めました。リーダー、メンバー一体となって作り出すYMCAのキャンプ。雪中という自然の中で、スキーを満喫したあつという間の3日間でした。



春のスキーキャンプでも、子ども、リーダーが躍動するプログラムを行っていきます。

12月13日～15日に群馬県の丸沼高原スキー場にてスキーリーダートレーニングが行われ、とちぎYMCAからは13名のリーダーが参加しました。とちぎ、ぐんま、茨城、千葉の計4つの北関東YMCAのリーダーが集まり、スキーキャンプの理解・技術の向上・生活を共にするリーダーとしての資質向上を目的に2泊3日を過ごしました。

バスの道中ではそれぞれのYMCAで行っているバスレクリエーションをやったり、キャンプソングを歌ったりして、スキー場へと向かいました。3日間のスキーでは今の自分の技術を上げることを目標にインストラクターと仲間と一緒に練習に励みました。そして夜には講義によってスキーへの理解を深めたり、北関東の仲間とより仲が深まるようなプログラムをしたりして熱い夜を過ごしました。

今回のリーダートレーニングで学んだことをもとに冬、春のプログラムに繋げていきます。

### 【とちぎYMCA・那須YMCAの2月の予定】

- 2/7（土）リーダートレーニング
- 2/14（土）-15（日）とちぎY野外クラブ（小学生）2月活動〈雪あそびキャンプ〉
- 2/22（日）Yキッズ2月活動〈水族館見学〉
- 2/23（祝・月）チャリティー・ピックルボール大会

## ユースリーダーのつぶやき

- ①本名（リーダー名）②学校名 学部なども  
③出身地④YMCAに入ったきっかけ⑤思い出に残った活動とその理由は？⑥今後の進路は？  
⑦YMCAに一言



- ①塩澤秀梧（しゅう）  
②国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科  
③栃木県那須塩原市  
④色々なボランティア活動に参加してコミュニケーションを高めたかったことや

子どもたちと関わって自分自身も成長していきたいと思ったからです。

### ⑤さしまチャレンジキャンプ

初めて参加したキャンプで緊張していましたが、他のリーダーに助けをもらいながらリーダーとして子どもたちと一緒に安全にプログラムをやり遂げることができたからです。また、大変なこともありましたが、子どもたちと過ごしたことで初めての経験をすることができ、達成感を得ることができたからです。

⑥相談者の話を傾聴し、気持ちに寄り添いながら生活に困難を抱える人やその家族からの相談や援助をすることでこの人に相談して良かったと思われるような社会福祉士になりたいです。

⑦YMCAは子どもたちとの関わりやリーダーとの活動の中で様々な経験ができると感じています。リーダーとして色々な活動に参加して子どもたちと一緒に活動を作っていきたいです！これからもよろしくお願いします！